

とうにうん

第34号 10年2月14日
JR東海労東二運分会
責任者 庭山義輝
編集 教宣部

東海労の合い言葉 年休は絶対に流さない！ 申し込みはあと1回かぎりです

すべての所員のみなさん

残りは1ヵ月。3月分だけですが、残りの年休は何日ですか。どう言おうとも3月中に年休が入らなければ、20日を越える分が流れます。チャンスはあと1回。20日までの申し込みだけです。追加申し込みもできます。

私たち東海労は昨年10月から、年休は絶対に流さない取り組みをしています。その成果か、変化が出ています。たとえば、残り年休数の多い組合員の抽選番号が急に良くなり、かなり消化できています。逆に残り数の少ない組合員の番号が、これも急に3ケタになったりしています。なんとこの変化は2ヵ月も3ヵ月も連続しています。抽選はコンピューター管理しているそうですから偶然かもしれませんが、極めて奇跡的な偶然だと思いませんか？

私たちは、年休は絶対に流さない取り組みのなかで「年休が入らない理由は何か」と運転科に聞きに行っています。運転科は、「番号が悪い」「要員がない」「申込者が多い」と言い、また「このままでは年休が流れるのか」と聞くと「そういうこともある」と平然としています。

私たちはこれまで、調査結果をもとにして申し入れをし、業務委員会で議論し、年休は絶対に流さないように強く要請していますが、幹鉄事は誠意ある回答をしていません。私たちは今後も調査を継続し、場合によっては労基署や労政事務所に、会社の姿勢や抽選番号の実態や年休が流れている現実を報告し、改善の指導をするように求めています。

これは 組合員とともに 労働組合が取り組むべき課題です

私たちが年休を申し込む＝時季指定するのは、年休を取る権利があるからです。決してお願いして年休をもらっているではありません。しかし会社は勝手な理由をならべ、かつ、流れることがある とまで言い放っています。

特にユニオン組合員のみなさん、ユニオン地本は『ユニオンは組合員の声を大切にし、「働きやすい職場づくり」に向け、会社としっかりとした協議を継続していきます。』と明言しています。そのとおりです。年休を絶対に流さないために、組合員と一体となって取り組むのが労働組合の本当の姿であり課題です。しかし「協議を継続」するだけでは、年休は絶対に流れます。

運転科にも分会にも 残りは00日です と大声で言おう